

目指す学校像	輝く笑顔 学ぶ意欲あふれる学校
--------	-----------------

重点目標	1 ICTを最大限活用した「アクティブ・ラーニング型授業」への深い理解と継続進化 2 全教職員が率先して教育環境の整備に参画する安心安全な学校づくりの推進 3 学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し、連携・協働するスクール・コミュニティの構築 4 教職員がアイデアを出し合い、新たな学びのスタイルに向け挑戦し続ける校内体制の創造
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学調では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ低い結果である。</li> <li>○市学調では、全ての教科において市平均を3ポイント以上下回っている。</li> <li>○市学調では、学習への関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ大差はない。</li> <li>○タブレット端末を自由に操り、学習課題の解決に向けた調べ学習やまとめに意欲的に活動する児童が多い。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学調の結果分析から、国語では特に「読むこと」、算数では「図形」と「データの活用」等、読解力に課題がある児童が多い。</li> <li>○児童が「楽しく分かりやすい」と感じる授業を実践する必要がある。ICTを最大限に活用したデジタルの優位性に立った場面を核とし、アナログ型の場面も組み込んだ児童主体の学びを展開していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」への理解と深化</li> <li>・市SSSPで学びの探究化・STEAMS化を実現</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教科指導ではICTを活用した学びを核とし、教員による問題や課題の提示、発問、板書、教材教具を効果的に組み合わせた授業を展開する。</li> <li>②学校課題研究において「主体的・対話的な深い学び」への理解を深める体系的な研修を推進委員会及びエバンジェリスト主導で実施する。</li> <li>③「教える」から「学ぶ」へ授業改革を目指し、どの学級でも毎日ICTを活用した児童の個別最適な学びを保障する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①児童アンケート「ICTを活用した授業は楽しく分かりやすいか。」の項目において肯定的な回答をする児童の割合が80%以上になったか。</li> <li>②学校課題研究の振り返りで「理解が深まり実践スキルが身に付いたか」において肯定的な回答が80%以上となったか。</li> <li>③教職員アンケート「児童が毎日ICTを活用し、自ら調べ、学習する環境を整備したか。」において肯定的な回答の割合が90%以上となったか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業への児童の関心は高く、その必要性を理解している。ICTの活用と楽しく分かりやすい授業には関連性があることから、一層ICTの活用を推進していく。</li> <li>・市教委指導主事や大学教授による講義を設け、これから目指す授業の在り方について学ぶことができた。今年度末には、全教員が自身の成果を発表する会が予定されている。</li> <li>・教員から児童に投げかけたテーマについて児童自らが課題を決め、ICTの活用と他者との対話がある個別最適な学びがある授業風景が当たり前になりつつある。</li> </ul>	B	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上とICTの関連性についての理解を深め、より効果的な活用について検証する必要がある。</li> <li>・個別最適で探究的な学びとしてICTが有効活用されているか検証する必要がある。(方策)</li> <li>・市教委と連携を図りながら、ICTの効果的な活用法を学ぶ研修を充実させていく。</li> </ul>	<p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTは情報とコミュニケーションツールの役割がある。手段はどうであれ、人とかわることが重要であることから、学校でも意識してもらいたい。</li> <li>・アナログも大切である。読み書きもしっかり指導してもらいたい。</li> <li>・遊びの要素を取り入れながら学びを深めてもらいたい。そのためには、他学年との交流(ドッジボールや鬼ごっこ)の場を設ける必要である。</li> <li>・中学校との連携も視野に、ICT教育を発展させてほしい。</li> </ul>
2	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童とその保護者に寄り添い、信頼関係の構築・発展を図るとともに、継続的な観察やアンケート等を活用し、児童理解に努めている。</li> <li>○施設整備の不具合が認められた場合、児童の安全確保への措置を速やかに行い、市教委と連携し対応している。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、迅速かつ適切に、全教職員が同歩調で組織的に対応する体制が必要である。</li> <li>○教職員による安全点検を確実に行うだけでなく、児童自らが日々の学校生活を振り返り、安全に対する意識を高めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、差別のない、児童一人ひとりの安心安全の確保</li> <li>・校内内外の巡視、毎月の安全点検による教職員・児童の危機管理意識の向上</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学年・学級のための時間を確保し、教職員間の対話を活性化させるとともに、生徒指導、教育相談の視点から児童に関する情報を共有する。</li> <li>②アンケート等の結果や面談等を通じて、児童の心の状態を把握し、迅速かつ適切な指導・支援を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学年内の情報共有が活性化し、生徒指導、教育相談部で具体策を立て、月内で速やかに対応したか。</li> <li>②アンケート結果を学年内で共有し、関係分掌を中心にSCやSSW、関係機関等と連携し具体策を講じたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導、教育相談、特別支援教育の3領域が連携し合い、児童の情報を的確に共有して具体的な対策を講じている。</li> <li>・専門職、関係機関等との連携は満足できる状態を維持している。関係する主任が率先して関わりをもち、対応について協議し速やかに実行する流れが確立されている。</li> </ul>	B	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の限られた時間でどのように関係分掌が機能を果たし、学校全体で児童理解に係る研修をする必要がある。(方策)</li> <li>・部会のもち方を一新し、全体会形式で開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の原因は千差万別である。保護者とのつながりを大切にしながら対応してもらいたい。</li> <li>・いじめは必ず起こる。保護者の対応に苦慮することもあるだろうが、学校としてのスタンスを示し、毅然とした対応をお願いしたい。</li> <li>・施設設備に関する事故が発生していないというのは当たり前だが、大変に素晴らしいと感じる。</li> </ul>
3	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登下校の見守り、読み聞かせ、おやじの会、自治会や育成会、PTAの支援を受け、学校と地域が一体となった活動が定着しつつある。</li> <li>○学校だよりやHP等を活用して教育活動を広く地域に広報するとともに、授業参観や集会、学校行事等を積極的に公開している。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会でSNN等地域の教育力を活かした活動として何ができるのかを熟議し、実際に地域と協働した活動を展開する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会とSSN等が連動し、学校と地域の一体感ある取組の充実</li> <li>・学校や地域の行事を通じて、互いがつながり合い、共に成長する機会の拡充</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会やSSNに関する情報を学校だよりや学校HPを通じて発信するなど、広く広報活動を行う。</li> <li>②学校地域連携コーディネーターが地域等との連絡調整役となり、協働のある取組を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校HPの更新を毎月実施し、学校と地域の協働に関する実績を保護者や地域に広く広報する。</li> <li>②学校運営協議会での熟議で出された話題を地域に発信し、協働して取り組むコミュニティを構築する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの更新作業ができる教職員の人数を増やす働きかけをし、ICT支援員と連携しながら順次スキルの向上を目指している。</li> <li>・第2回までの情報を順次学校だよりを通じて地域に発信している。</li> </ul>	B	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務過多により、学校HP担当の教員が更新作業に着手できない。(方策)</li> <li>・校務分掌の平準化を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA主催で保護者同士がつながるコミュニケーションづくりの場を設定してもらいたい。</li> <li>・他学年の交流や新しい体験学習をもっと増やしていく必要があると感じている。</li> <li>・おやじの会をはじめ、子どもたちは地域のありがたみを感じているのが素晴らしい。</li> </ul>
4	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳科、体育科の研究の成果として児童の自己存在感、自己有用感を高める教育活動が定着している。</li> <li>○長期欠席児童へは、保護者との連携、オンライン授業や学習支援室の開設等を通じて教育機会の確保に努めている。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教員がこれからの教育の方向性を見通し、失敗を恐れず新たな学びのスタイルに積極的に挑戦していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員がアイデアを出し合い、新しい学びに向かって挑戦し続ける意識の向上</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ICTの効果的活用やアクティブ・ラーニング型授業の実践につながる研修を毎月1回以上行う。</li> <li>②授業参観や学校公開日等の機会を捉えて、全教員がICTを活用した授業公開を年に1回以上公開する。</li> <li>③国の動向や本市の目指す教育に関する情報を教員にリアルタイムで提供することで、新たな学びに挑戦する意識を高める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①市教委と連携し理論を学ぶ研修を行うことで、教員が日々の実践に役立つスキルを習得し、授業実践への意欲につながったか。</li> <li>②全教員がICTを活用した授業公開を年に2回以上実施したか。</li> <li>③全ての教員が自らの目標に向け授業改善に取り組み、90%以上の教員が目標を達成し、校内でその成果を報告・共有することができたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月末までに10回の一般研修を実施してきた。(学力向上3、生徒指導・教育相談・特別支援6、書写1)</li> <li>・2学年以上においてICTを活用した授業公開をこれまでに2回以上実施している。</li> <li>・教員一人ひとりが「教える」から「学ぶ」へとシフトした授業を目指し、自主研修を計画的に進めている。</li> </ul>	B	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学び、探究的な学びのためのICT活用事例が乏しい。</li> <li>・新しいことに挑戦していない教員がいる。(方策)</li> <li>・ICT研修を計画的に行う。</li> <li>・教職員が挑戦しやすい職場の雰囲気を目指し、日頃からコミュニケーションを大切にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型学習の充実を図ってもらいたい。</li> <li>・教科領域の特性を踏まえた教員研修を実施してもらいたい。</li> <li>・ICTと体験活動とを組み合わせ、新たな学びのスタイルを確立させてもらいたい。</li> </ul>